

富士スバルライン洞門等の整備について

	頁
1 要旨	1
2 経緯・現状	1
3 現時点での計画(概要)	3
4 遺産影響評価	4
5 遺産影響評価部会	4

富士スバルライン洞門等の整備について

1 要旨

富士スバルライン(富士山有料道路)において、山梨県が主体となり、雪崩対策のために洞門等を整備する。

2 経緯・現状

年 度	内 容
令和2年度	<p>山梨県が富士スバルラインにおける雪崩に関する調査を実施 【調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none">●雪崩の到達が予想される14箇所を確認(図1の○箇所)➢過去に雪崩が到達した箇所(13箇所)➢今後雪崩が到達する可能性が高い箇所(1箇所)●14箇所のうち4箇所(坂下洞門、青草洞門、御庭洞門、4合目大沢駐車場の導流堤)は洞門、導流堤により対策済●1箇所(図1のA)は対応中(石楠花橋の災害復旧工事)●残り9箇所(図1のB, C, D, E, F, G(H), I, J, K)については対策が講じられていないため、利用者の安全を確保するための検討が必要
令和3～4年度	<p>山梨県が未対策箇所9箇所のうち優先順位(図2)の高い2箇所(図1のC, D)の洞門増設等の詳細設計を実施</p>

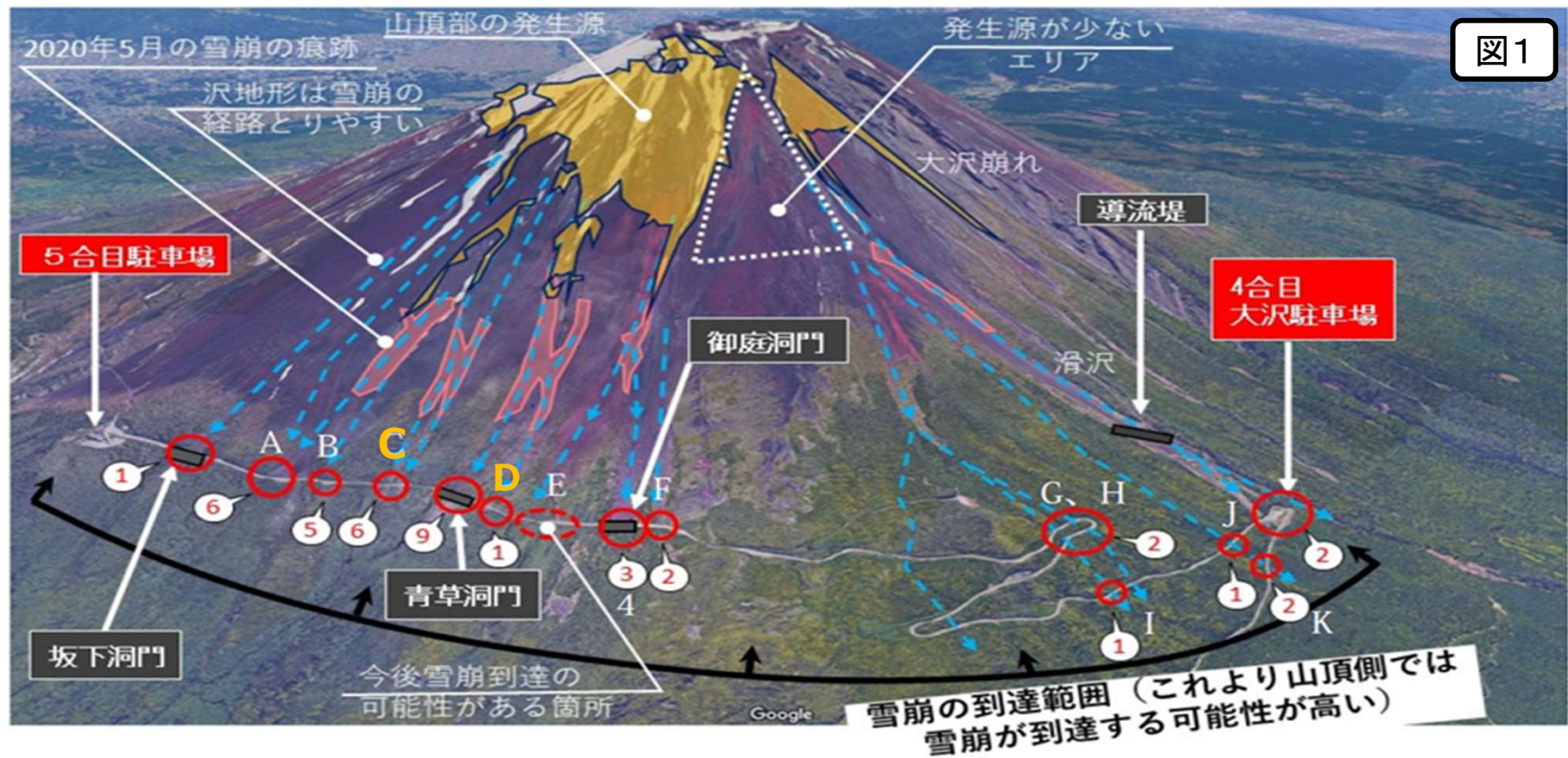


図1

凡例

- 雪崩到達箇所 (過去に雪崩が到達した所)
- ① 雪崩の到達回数
- 今年発生した雪崩の痕跡 (デブリ)
- 沢地形
- 雪崩到達箇所 (今後雪崩到達の可能性のある所)

未対策箇所9箇所のうち優先順位

- 1位: C(苔桃橋) : 6~7回、2021被災、2020痕跡
- 2位: D : 1~2回、2021被災、2020痕跡
- 3位: B(石楠花隣) : 5回(発生の記録が残るが、位置が不明瞭)
- 4位: F, G(H), I, J, K : 1~2回(雪崩の発生源が少ないエリア)
- 5位: E : 発生の可能性が高い

図2

3 現時点での計画(概要)

【来訪者の安全確保】

優先順位の高い2箇所にて、洞門(C (苔桃洞門※仮称)、D (青草洞門))を整備する。



- 施工予定箇所
- 富士スバルライン

(国土地理院電子国土WEBより)

【現況】



【計画】



(google map より)

4 遺産影響評価

- 構成資産の「富士山域」内での開発行為のため、遺産影響評価を実施する。
- 山梨県が遺産影響評価書(案)を作成し、遺産影響評価部会で協議を行い、学術委員会、作業部会及び関係省庁への意見照会を経て、令和6年3月開催予定の遺産協議会において報告を行う。

令和5年度						令和6年度～
4～5月	6～7月	8～9月	10～11月	12～1月	2～3月	
←				→		
遺産影響評価部会			○ 意見照会 (学術委員会・作業部会)		○ 報告 (協議会)	工事

5 遺産影響評価部会構成

- 学術委員 稲葉副委員長、岡田委員、加藤委員、西村委員、藤井委員、吉田委員
- 国 文化庁
- 県 山梨県、静岡県